35　体重軽減指向製剤と免疫担当細胞の動向

○松井健一郎[2)]、松井由美子[1)]、大川尚子[1)]、鄧揚鴎[2)]、李愛麗[2)]、横田啓[3)]、清水昌寿[2)]
石川天然薬効物質研究センター[1)]、金沢医大・血清学[2)]・放射線医学[3)]

［目的］　体重と身長の比率により肥満と判定されると、種々の疾病発生率が高くなるといわれている。そのため、体重軽減効果を示す標品が市場に出回るにつれ、受好者の数は年々増加の一途を辿っている。しかし、体重軽減製剤は適切な運用の下で使用されないと一過性の低栄養状態を来し、後天的免疫不全状態に陥る恐れがある。そこで我々は体重軽減効果を指向とした標品を長期間使用して、その体重軽減作用と免疫不全状態発現の可能性について調べた。

［材料と方法］　ICR 退役雌マウスを用いて、体重軽減作用を目的とした被験食品（株）ノエビアフーズ:「スリムミックス」及び構成単味標品別の作用を検討した。

「スリムミックス」及び構成単味生薬をマウス当り 1g/kg/日を 1 ヶ月間経口投与した。その後、体重量、肝重量、体脂肪率及び生化学的成績の他、免疫担当細胞の量的・質的影響について検討した。また、脂肪の蓄積状況の変動を看るため、MRI 検査を行った。

［成績と考察］　体重減少効果を認めた標品は肝重量並びに中性脂肪の低減が示された。又、MRI により、体脂肪、皮下脂肪共に軽減効果が示された。この様な標品を 1 ヶ月間継続投与しても免疫担当細胞の量的及び質的な要因に関して低下的な変動は認められなかった。また生化学的検査項目を網羅した結果においても異常な変化は認められなかった。構成単味生薬別に検討の結果特にカプサイシンは体重減少効果と免疫担当細胞賦活効果の兼備が示された。